



国際化に関する市民アンケート調査（調査結果）

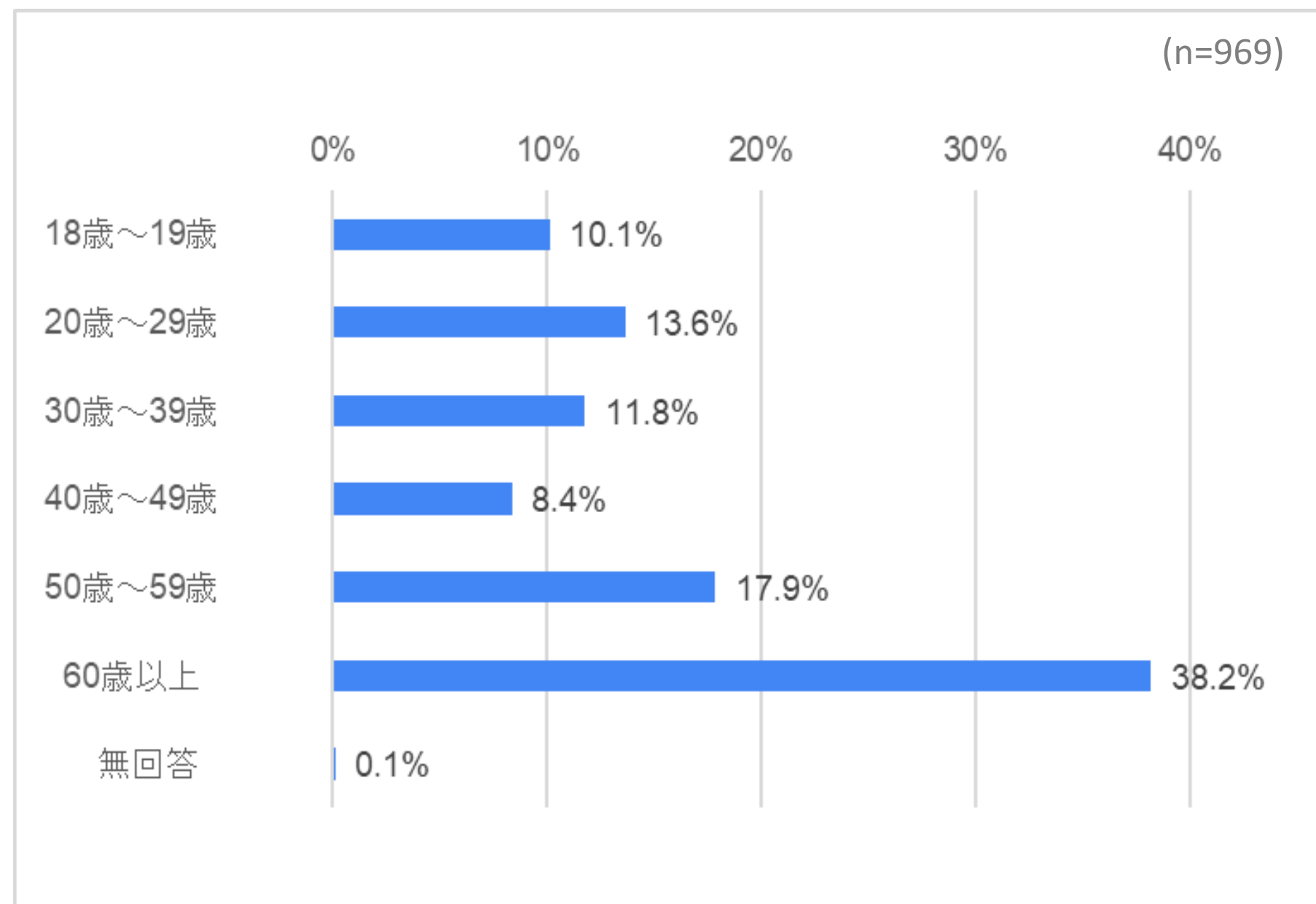
● 調査概要

調査対象	① 満18才以上の日本人市民から無作為抽出した3,000人（R2：1,500人） （前回調査をもとに年代ごとに抽出数を補正）
	② 市内に居住する満18歳以上の外国人市民 約1,290人（R2：約1,100人） ※主な送付先： ・市内保育所及び小中学校等に在籍する外国人児童・生徒の保護者 ・市内大学、専門学校等の在校生 ・日本語教室の学習者 ・市内企業
回収数	日本人 969件（32.3%）、外国人643件（49.8%）（R2:日本人 610件、外国人 476件）
調査方法	郵送による配布・回収 ※外国人市民へは、英語、中国語、ベトナム語、ネパール語、ミャンマー語、やさしい日本語の中から、各学校・企業等に在籍する外国人の使用言語の調査票を配布
調査時期	令和7年12月～同8年1月



日本人への調査結果

①年代



【前回調査との比較】

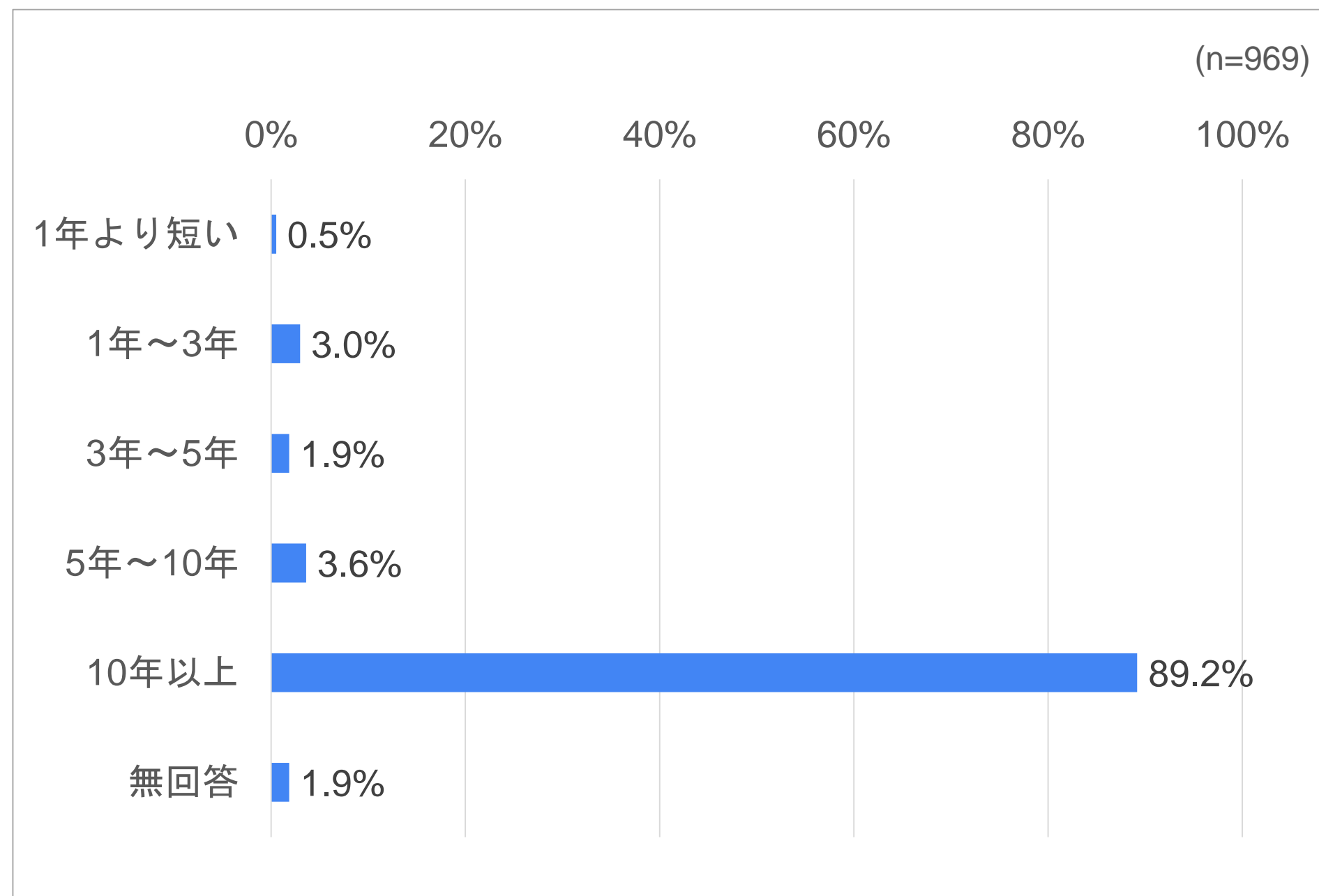
(%)

	令和2年	令和7年	増減
18歳～19歳	1.3	10.1	8.8
20歳～29歳	6.9	13.6	6.7
30歳～39歳	10.3	11.8	1.5
40歳～49歳	18.5	8.4	-10.1
50歳～59歳	13.3	17.9	4.6
60歳以上	49.3	38.2	-11.1
無回答	0.3	0.1	-0.2



日本人への調査結果

②姫路市での居住年数



【前回調査との比較】

(%)

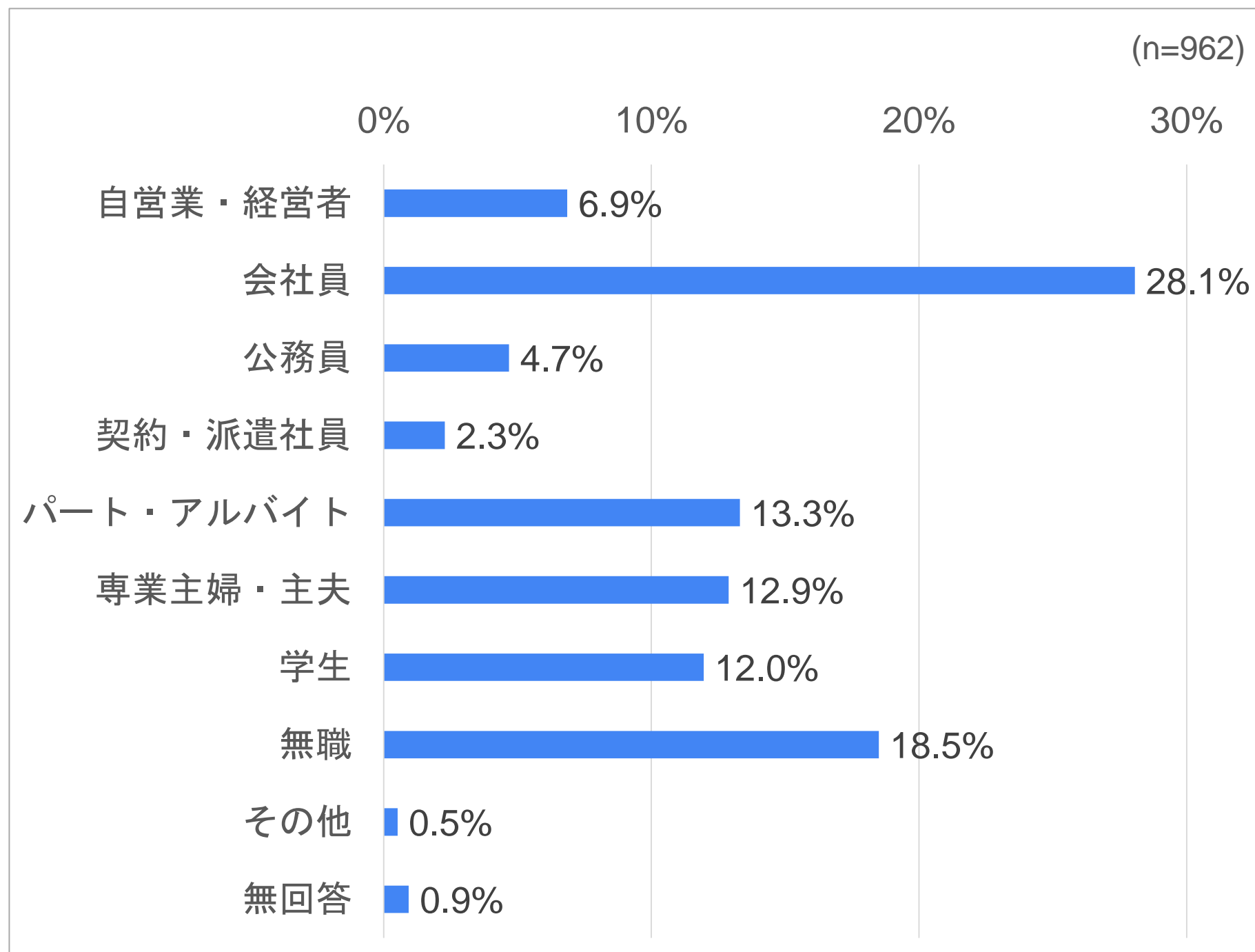
	令和2年	令和7年
1年未満	10.3	0.5
1年～3年未満		3.0
3年～5年未満		1.9
5年～10年未満		3.6
10年以上	85.1	89.2
無回答	4.4	1.9

9.0



日本人への調査結果

③職業



【前回調査との比較】

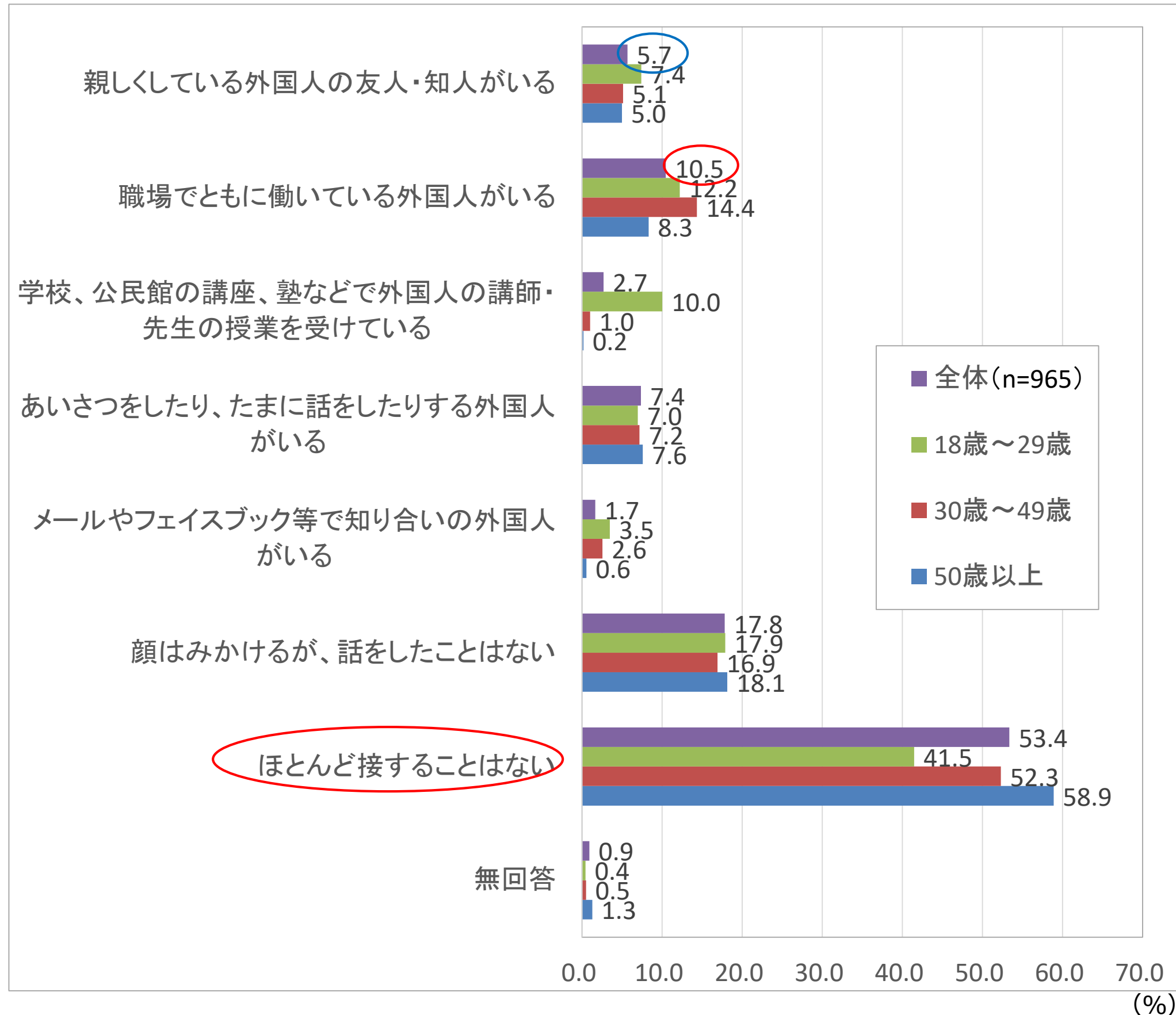
(%)

	令和2年	令和7年	増減
自営業・経営者	7.0	6.9	-0.1
会社員	25.9	28.1	2.2
公務員	2.8	4.7	1.9
契約・派遣社員	2.1	2.3	0.2
パート・アルバイト	15.7	13.3	-2.4
専業主婦・主夫	16.7	12.9	-3.8
学生	2.8	12.0	9.2
無職	23.4	18.5	-4.9
その他	2.5	0.5	-2.0
無回答	1.0	0.9	-0.1



日本人への調査結果

④外国人との関わり



【前回調査との比較】

(%)

	令和2年	令和7年	増減
親しくしている外国人の友人・知人がいる	6.6	5.7	-0.9
職場でともに働いている外国人がいる	6.4	10.5	4.1
学校、公民館の講座、塾などで外国人の講師・先生の授業を受けている	0.8	2.7	1.9
あいさつをしたり、たまに話をしたりする外国人がいる	7.4	7.4	0.0
メールやフェイスブック等で知り合いの外国人がいる	1.6	1.7	0.1
顔はみかけるが、話をしたことはない	13.0	17.8	4.8
ほとんど接することはない	61.8	53.4	-8.4
無回答	2.5	0.9	-1.6

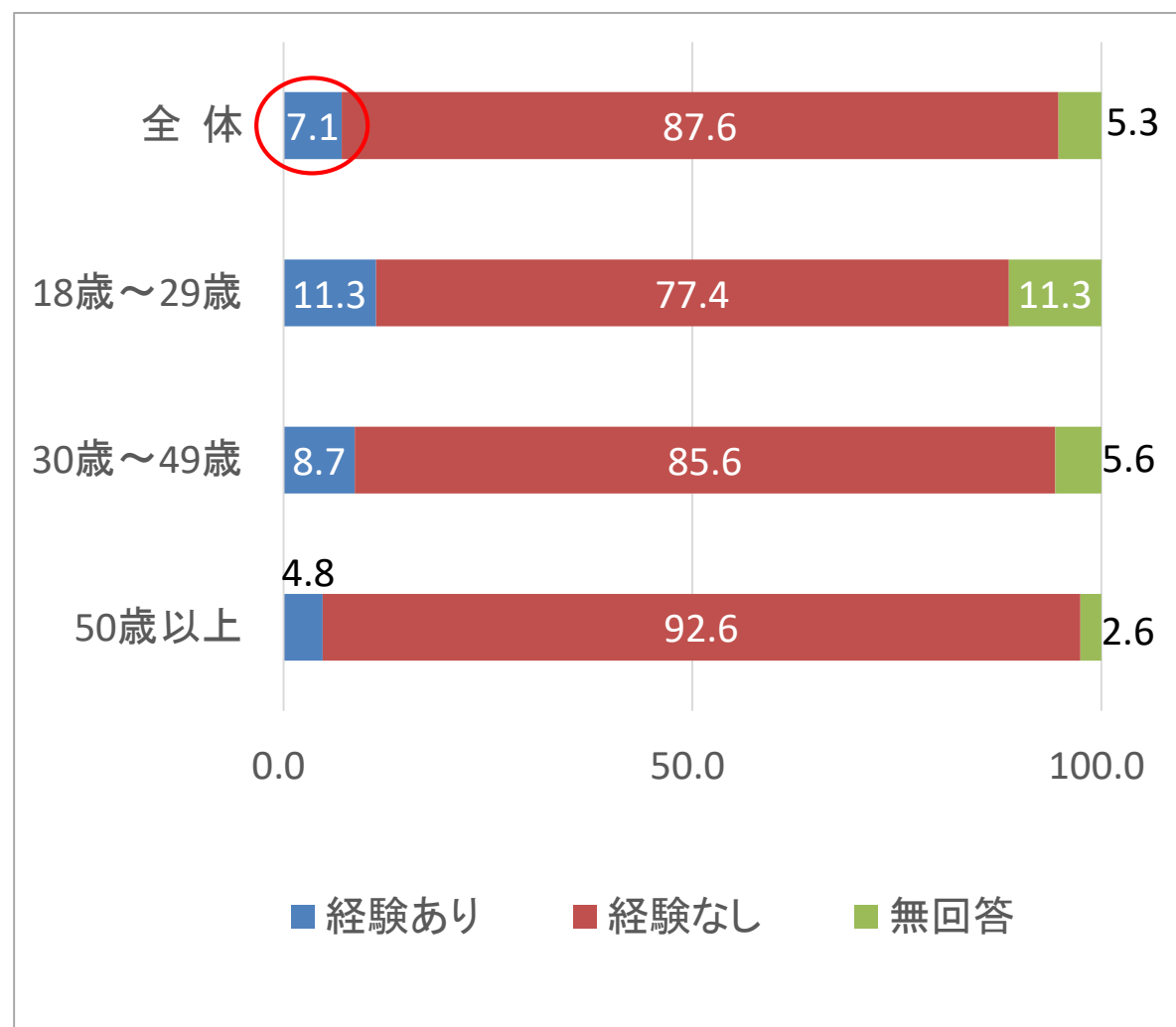
「ほとんど接することはない」(53.4%)が最も高い。一方で、職場で外国人とともに働いている割合は全体の10.5%(30～49歳は14.4%で最も高い。)で、職場での交流は一定程度あるが、親しい友人・知人としての交流は少ない(全体の5.7%)。若年層(18-29歳)は学校や職場での交流が比較的多い傾向がある。全体としては「生活圏での接触の機会は限られている」ことが示され、日常的な接触の機会の創出が交流促進のポイントと言える。



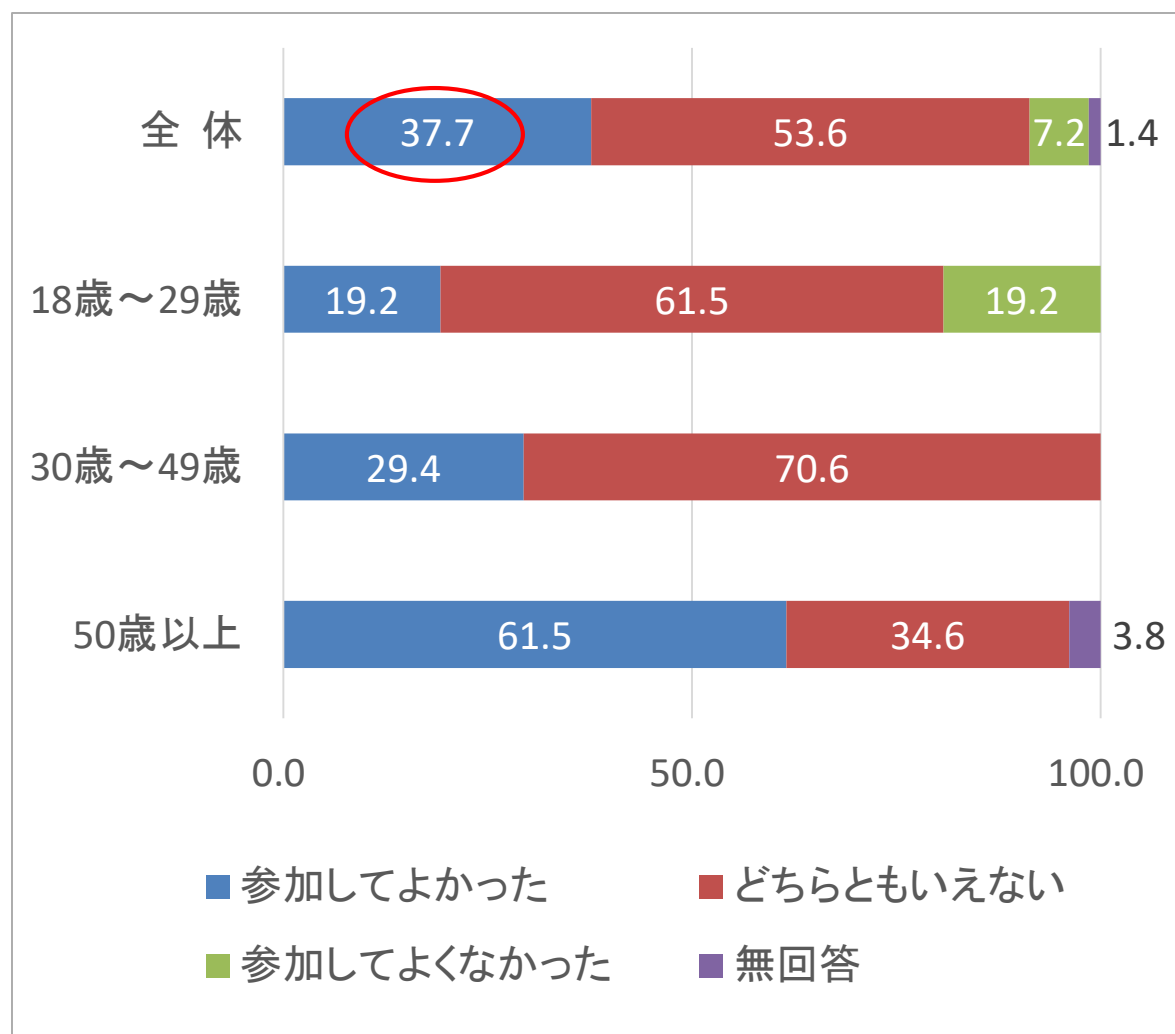
日本人への調査結果

⑤国際交流に関するボランティア活動

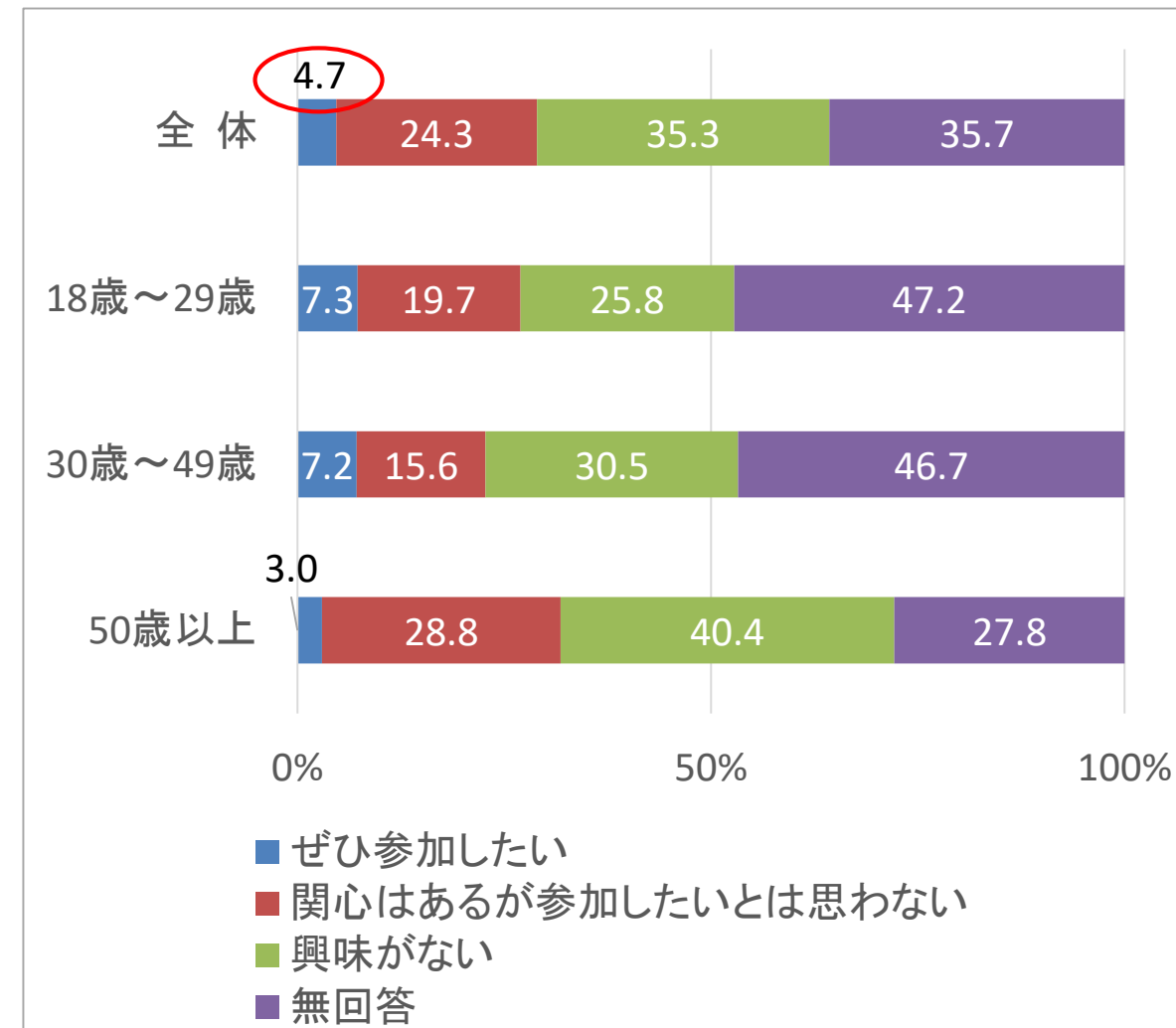
【参加経験の有無】 (n=969)



【「経験あり」の評価】 (n=69)



【「経験なし」の参加意向】 (n=849)



全体では、「経験あり」は7.1%（69人）であり、ボランティア経験者は非常に少ない。

経験者の37.7%が「参加してよかった」と答えており、特に50歳以上で割合が高く、ある程度の満足度はうかがえるが、「どちらともいえない」も過半数ある。

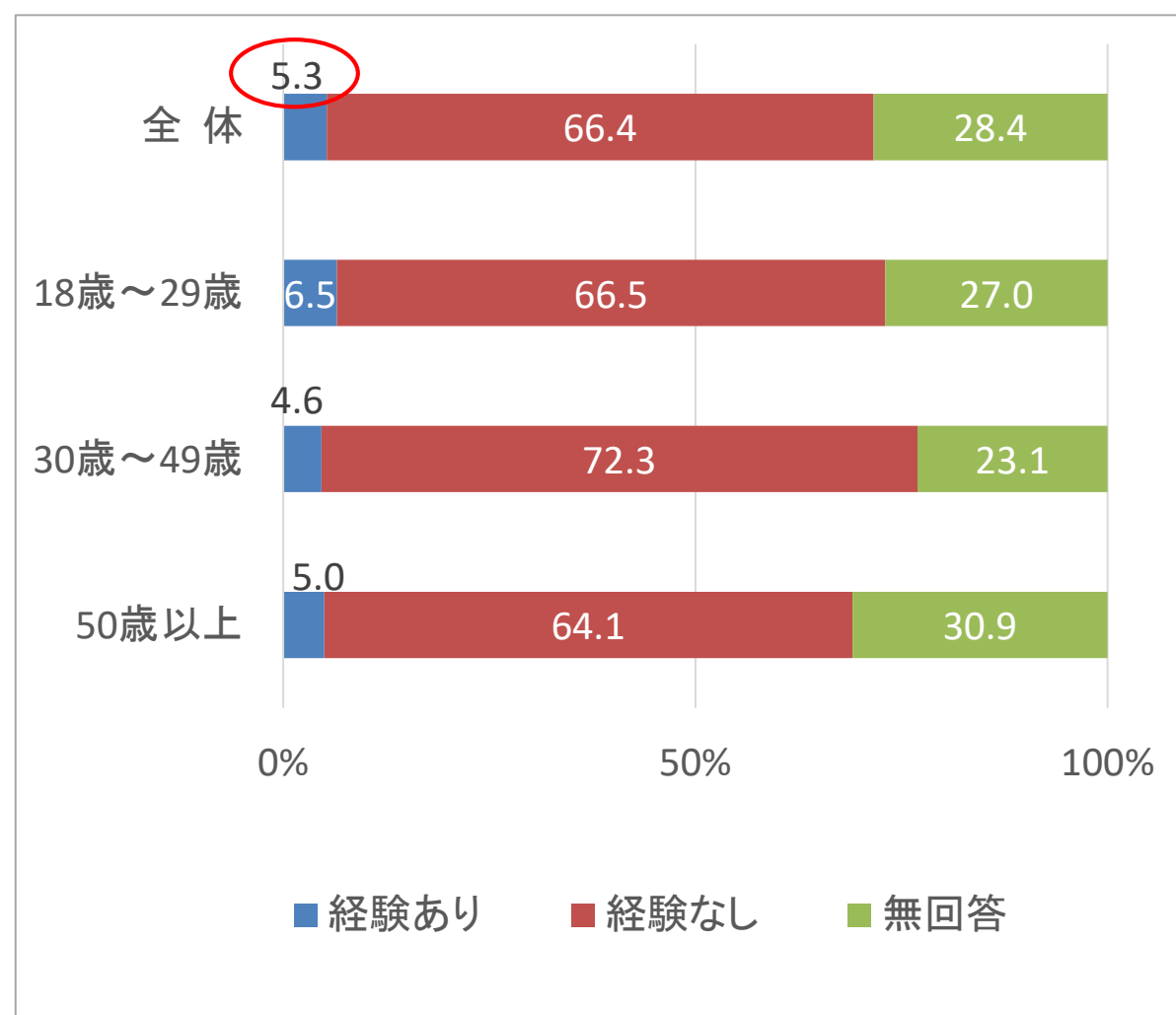
未経験者のうち「ぜひ参加したい」は全体の4.7%（40人）で、外国人との交流を積極的に望む層は少数である。特に50歳以上では「経験なし」が92.6%で、うち「興味がない」と回答した割合も高い（40.4%）。若年層（18-29歳）は相対的に経験率と参加意向が高い。未経験者の参加意向については無回答が多く（全体の35.7%）、参加意欲の実際の高さは不明な部分がある。情報不足や参加障壁（時間・条件等）があると推察される。



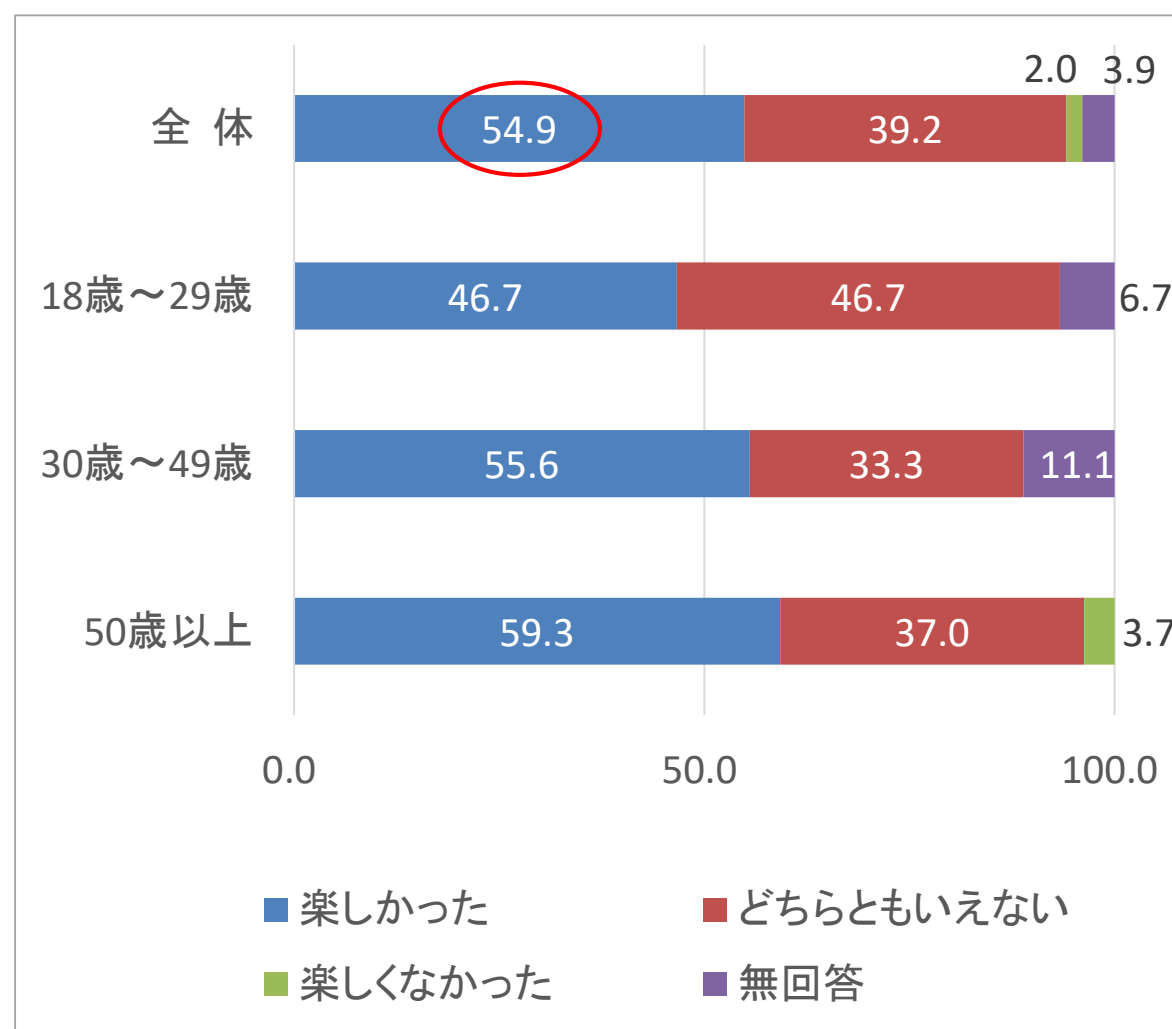
日本人への調査結果

⑥外国人との交流イベント

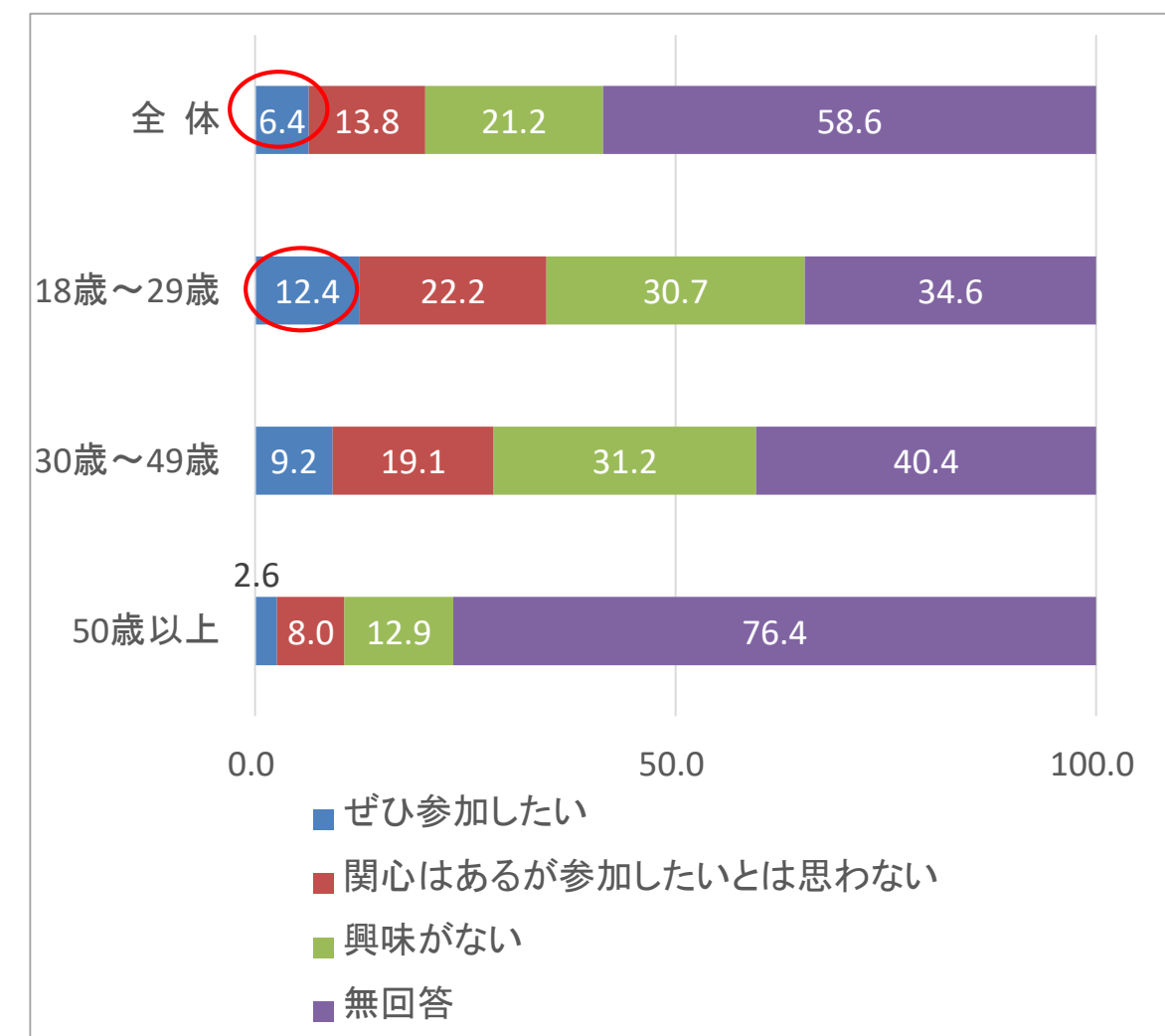
【参加経験の有無】 (n=969)



【「経験あり」の評価】 (n=51)



【「経験なし」の参加意向】 (n=643)



全体では、「経験あり」は5.3%（51人）で、交流イベント参加経験者は非常に少ない。

参加経験者の評価は「楽しかった」が過半数（54.9%）を占め、イベントに対する満足度は高い傾向である。

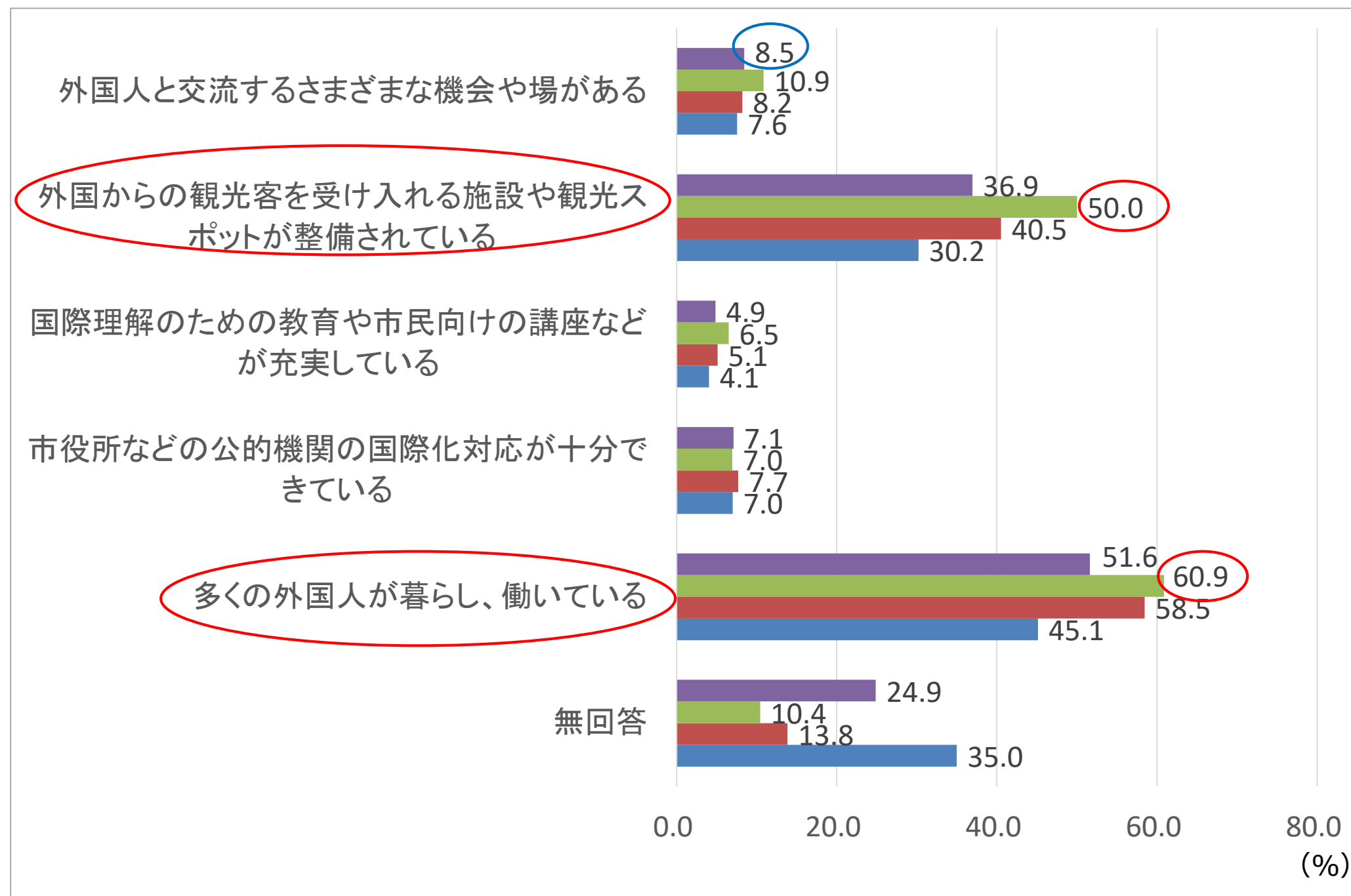
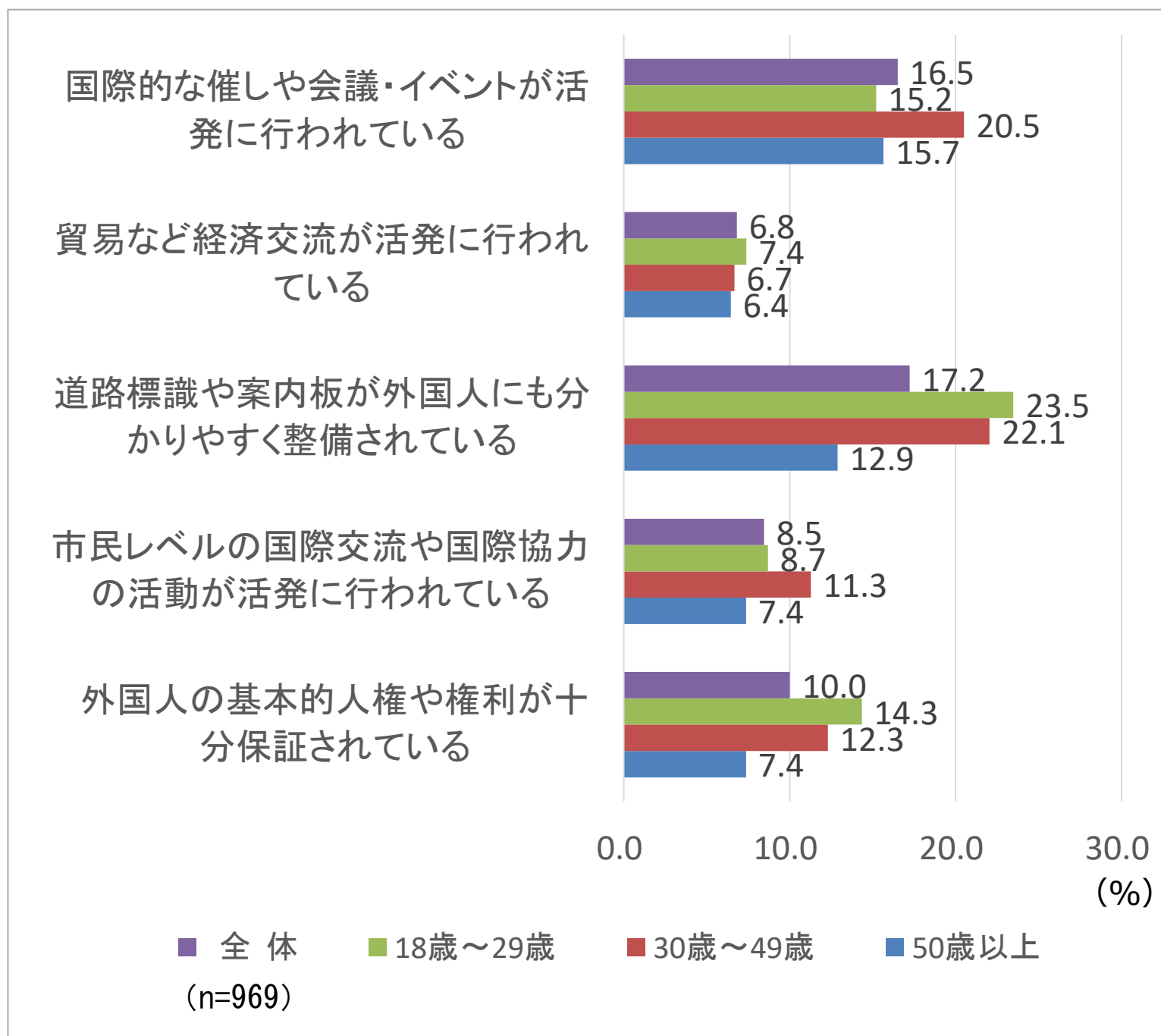
未経験者のうち「ぜひ参加したい」は6.4%（41人）にとどまる。未経験者の参加意向については無回答が非常に多く（全体の58.6%）、潜在的交流意欲は不明な部分がある。無回答の理由としては、イベントの存在自体を知らない、興味はあるが回答を控えたなどが考えられる。

若年層（18-29歳）は比較的参加意欲が高く（12.4%）、若年向けの募集（SNSでの告知等）の強化や気軽に参加できる形態での開催（体験型・短時間プログラム等）が効果的と考えられる。



日本人への調査結果

⑦姫路市の国際化推進について（現状認識） ※複数回答

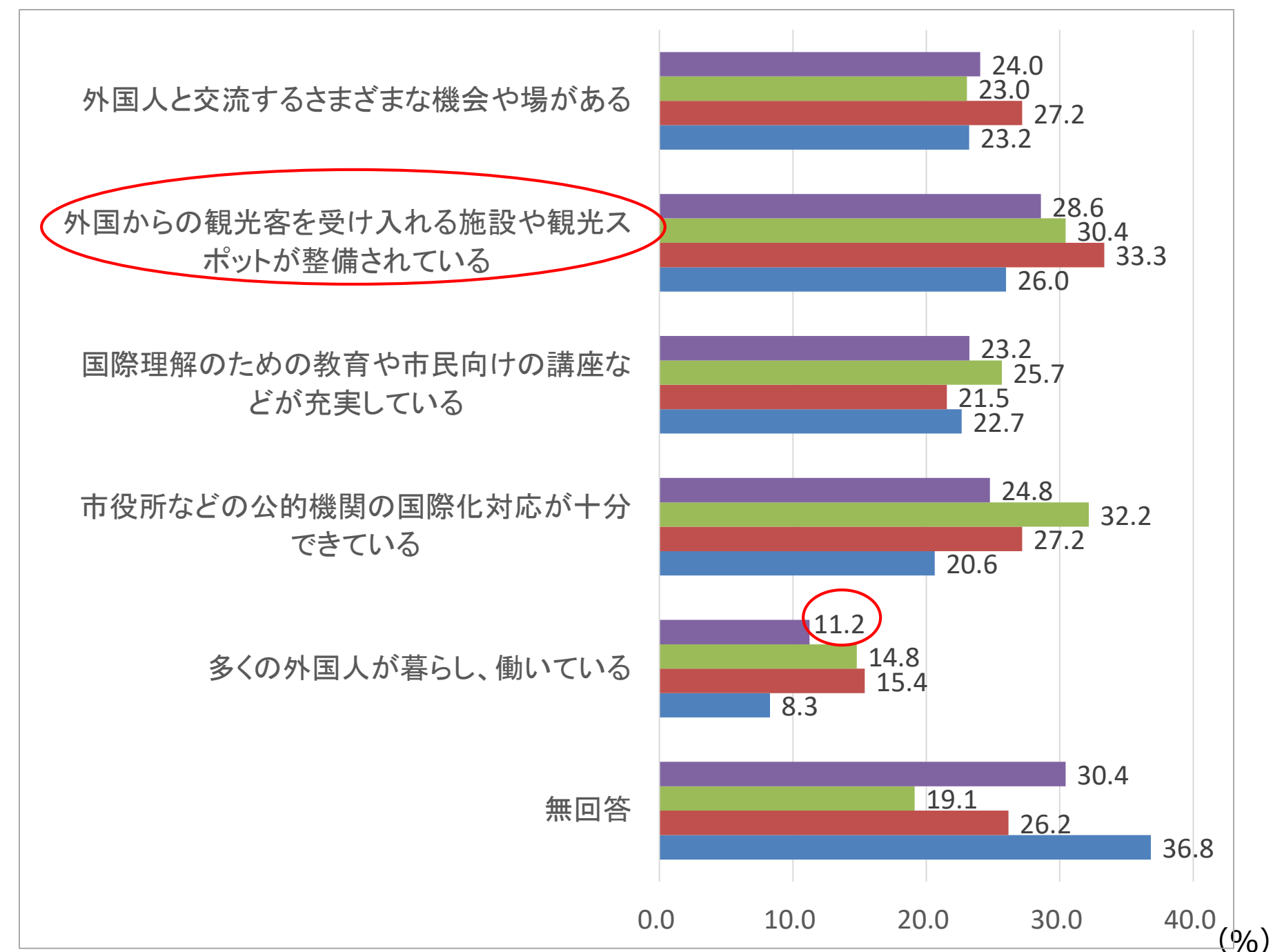
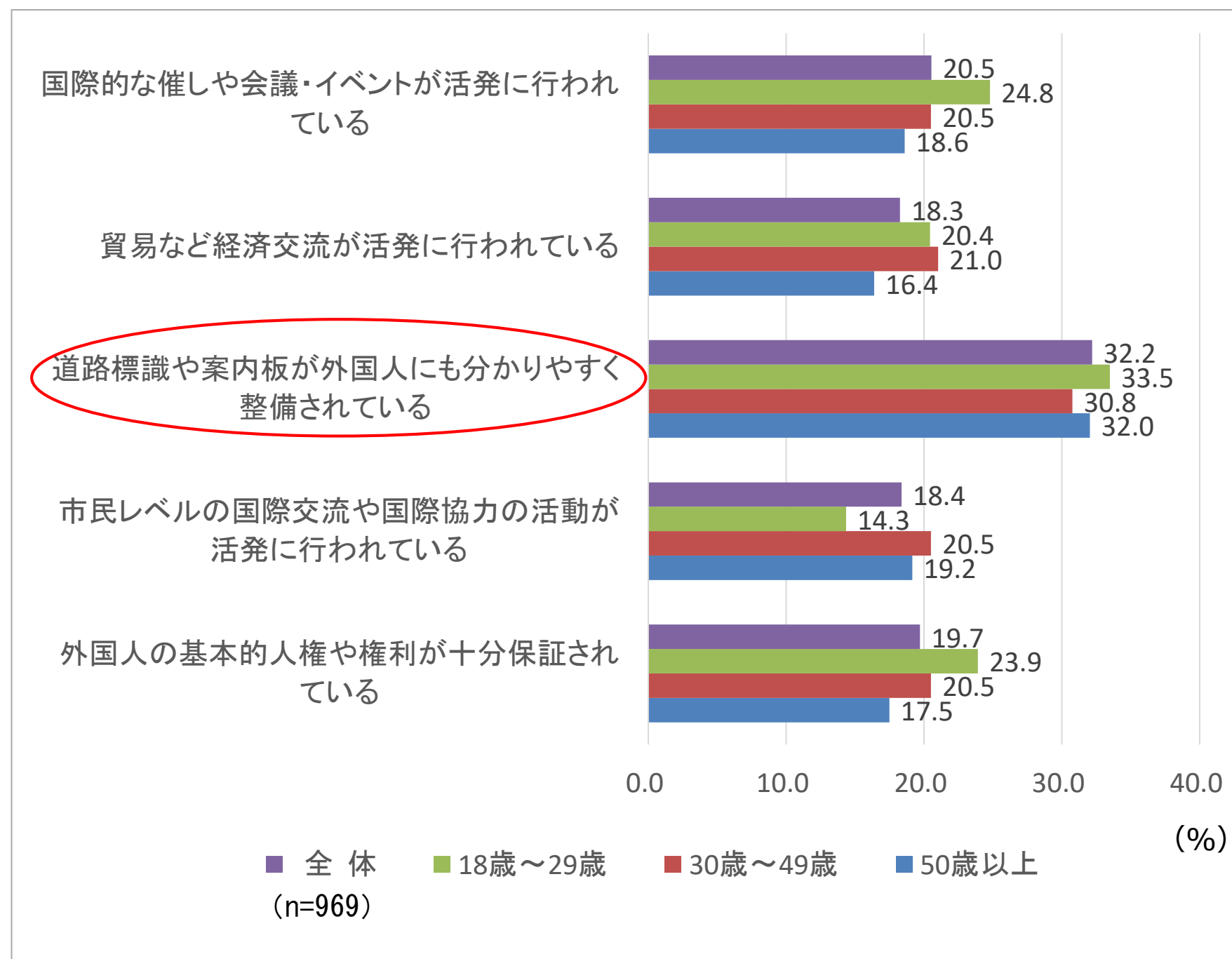


現状認識では「多くの外国人が暮らし、働いている」と「外国からの観光客を受け入れる施設や観光スポットが整備されている」との認識が相対的に高い。特に、若年層（18-29歳）でこの2つの項目に対する認識が高く（60.9%、50.0%）、外国人との接触が進んでいる状況がうかがえる。一方で、「外国人と交流するさまざまな機会や場がある」は全体の8.5%で、実際の交流機会の認知度は低い。



日本人への調査結果

⑧姫路市の国際化推進について（望む都市像） ※複数回答



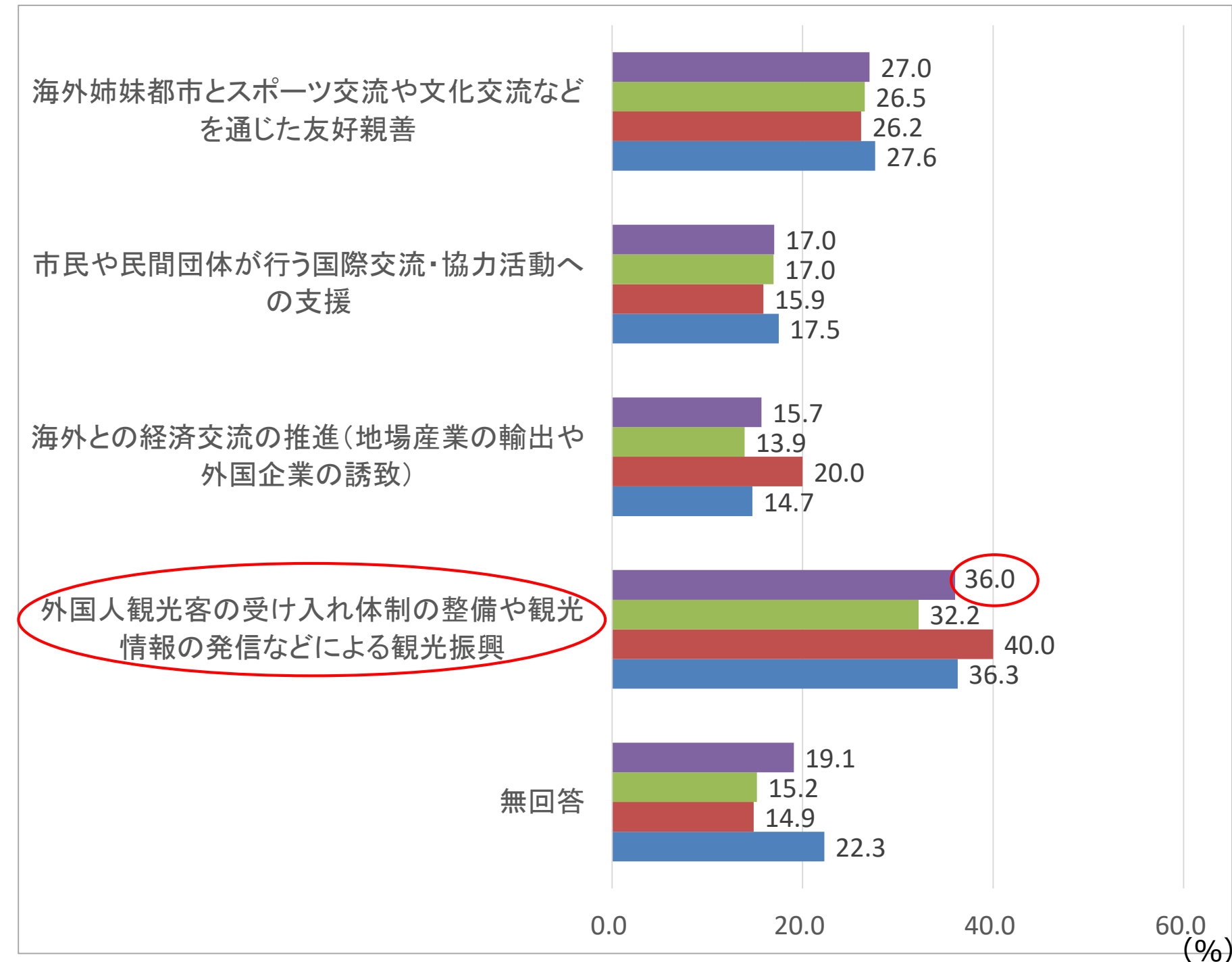
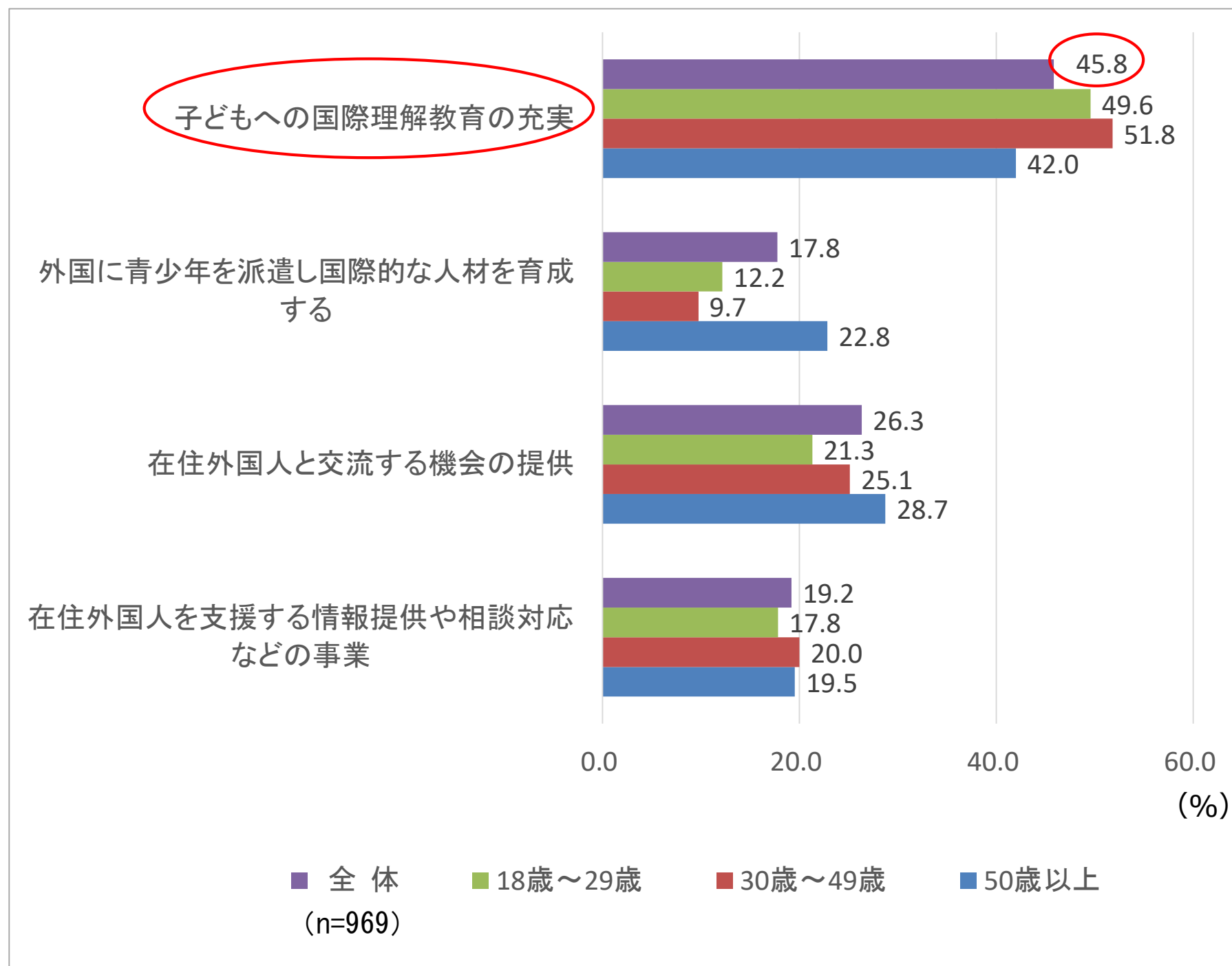
望む都市像としては、「道路標識や案内板の整備」や「観光客を受け入れる施設や観光スポットの整備」がすべての年齢層で高い。他方、「多くの外国人が暮らし、働いている」ことを望む割合は全体の11.2%で、⑦の「現状認識」での回答（51.6%）との差が大きく、外国人の受け入れについては認識のギャップがある。居住促進よりもまずは受け入れ体制の整備を望む傾向がうかがえる。



日本人への調査結果

⑨国際理解増進に必要な取り組み

※複数回答



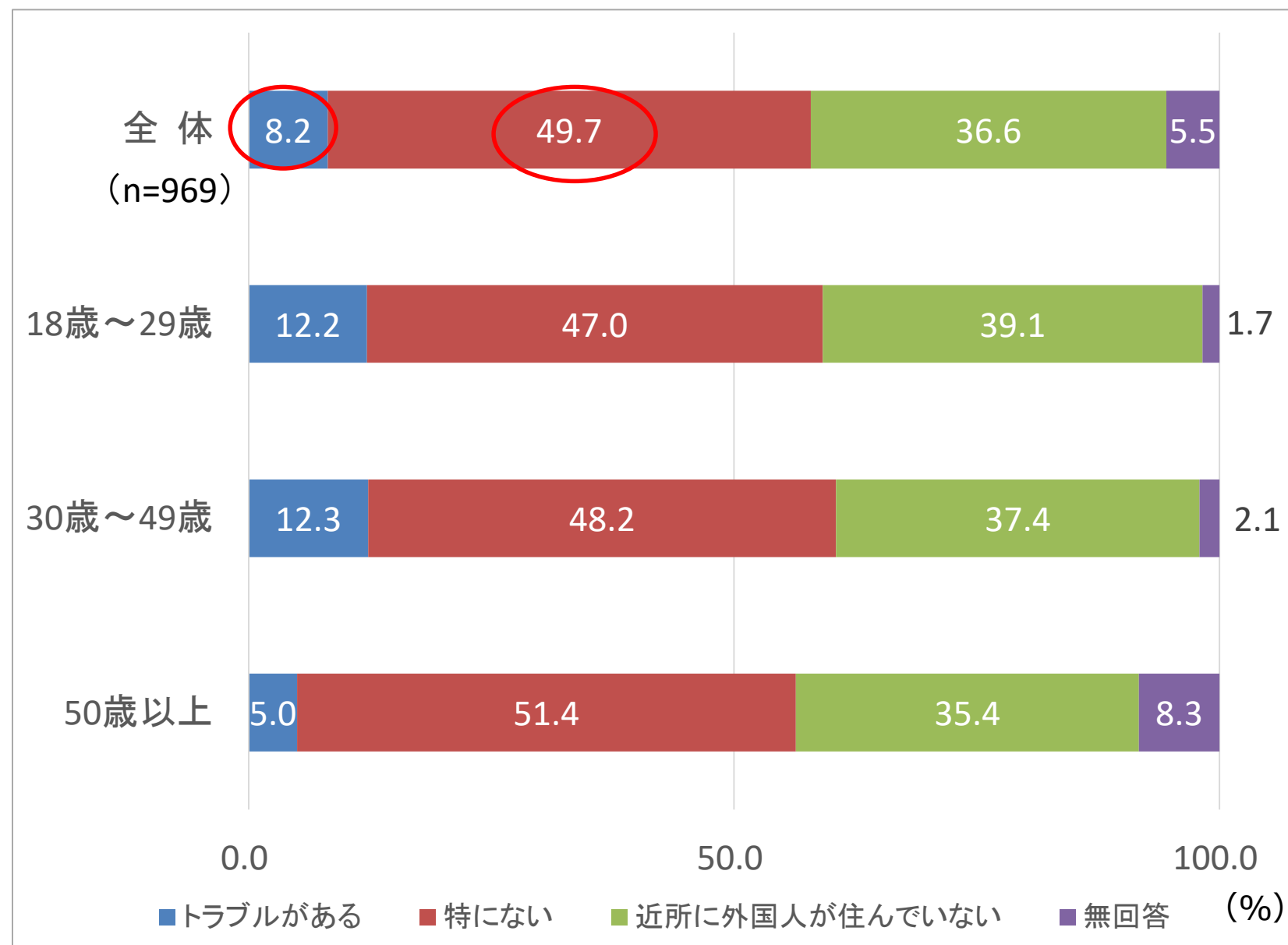
「子どもへの国際理解教育の充実」(45.8%)が最も高く、次いで「外国人観光客の受け入れ体制整備や観光情報の発信などによる観光振興」が36.0%となっている。これらは、短期～中期で取り組むべき政策として優先順位が高いといえる。年代別でも「子どもへの国際理解教育の充実」は、すべての年齢層で最も高い率を示している。



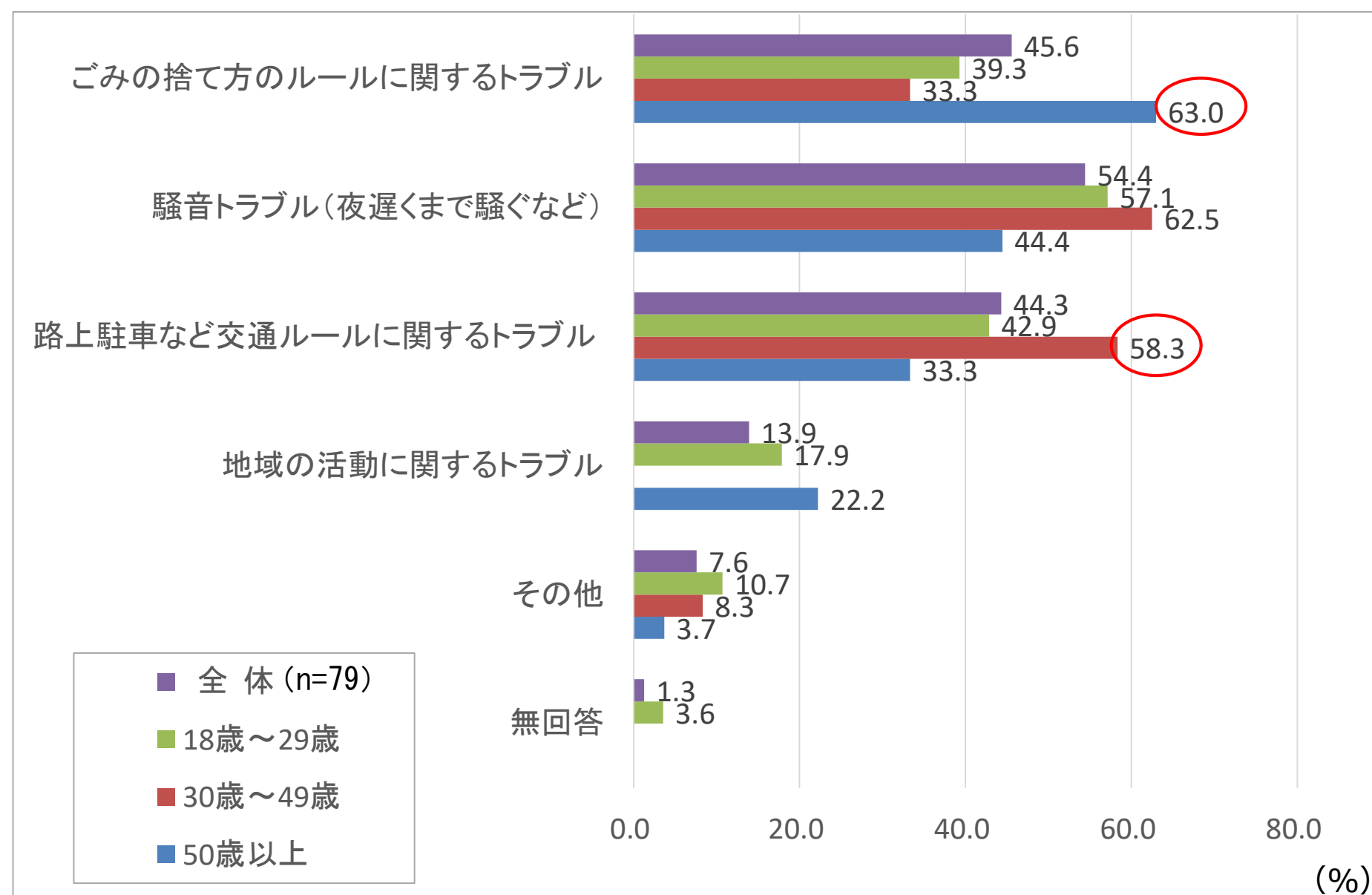
日本人への調査結果

⑩地域における外国人とのトラブル

【トラブルの有無】



【トラブルの種類】 ※複数回答



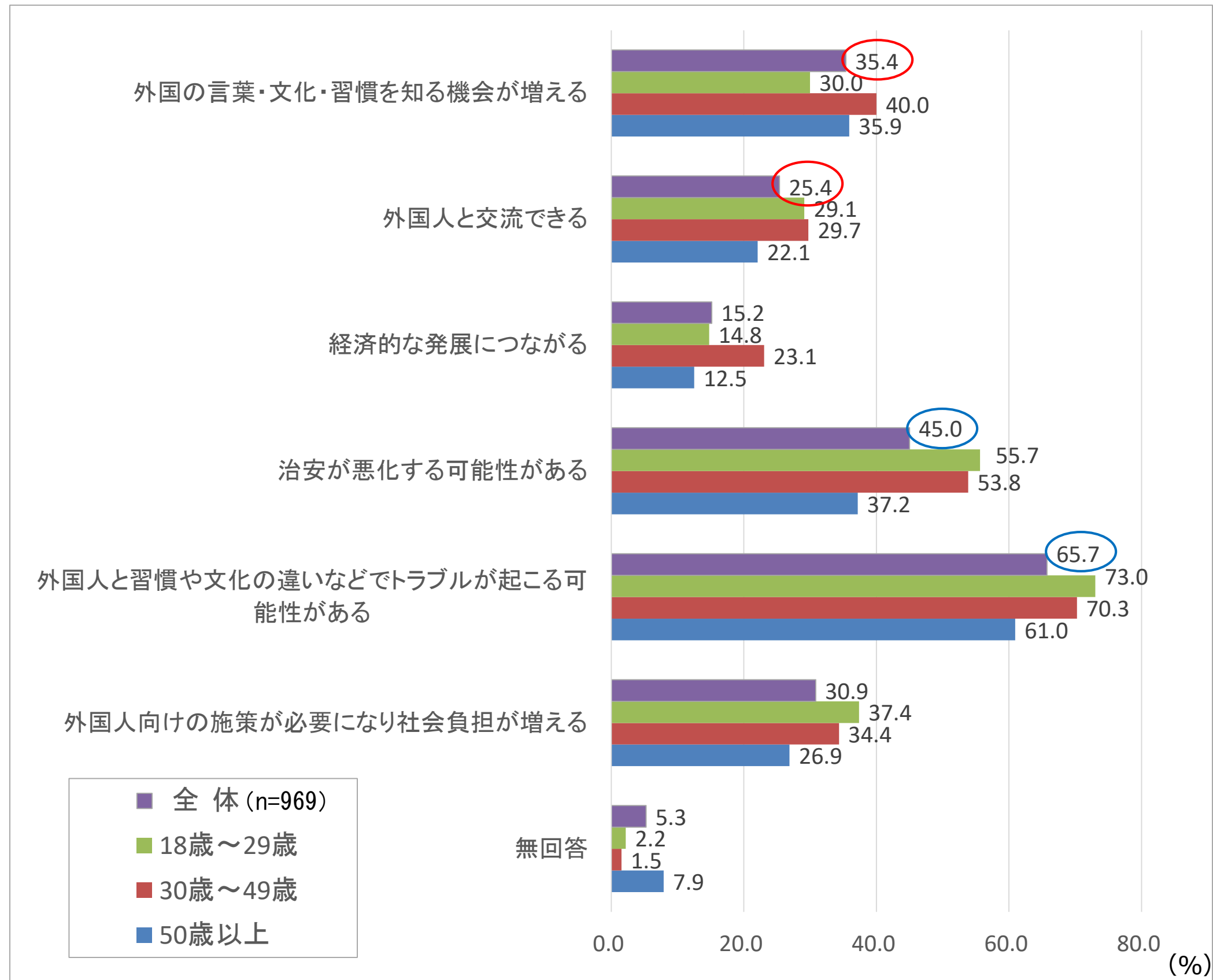
地域での外国人とのトラブルについては、「特にない」（49.7%）が最も高い。一方で「トラブルがある」は全体の8.2%で、外国人との交流割合は低いものの、局所的にはトラブルが存在する。年代別では若い層（18-49歳）が「トラブルがある」と答える割合が高く（約12%）、50歳以上では5.0%にとどまる。

トラブルの種類は、「ごみ出し・騒音・路上駐車」といった生活ルール関連のトラブルが中心で、地域活動に関するトラブルは全体の13.9%と低い。年代別では50歳以上で「ごみ」に関するトラブルが多く（63.0%）、30歳-49歳の層で「路上駐車」のトラブルが比較的多い（58.3%）点が特徴である。



日本人への調査結果

⑪ 在住外国人が増えることについての考え ※複数回答



【前回調査との比較】

(%)

	令和2年	令和7年	増減
外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増える	48.2	35.4	-12.8
外国人と交流できる	31.1	25.4	-5.7
経済的な発展につながる	19.3	15.2	-4.1
治安が悪化する可能性がある	29.8	45.0	15.2
外国人と習慣や文化の違いなどでトラブルが起こる可能性がある	44.8	65.7	20.9
外国人向けの施策が必要になり社会負担が増える	13.6	30.9	17.3
無回答	9.3	5.3	-4.0

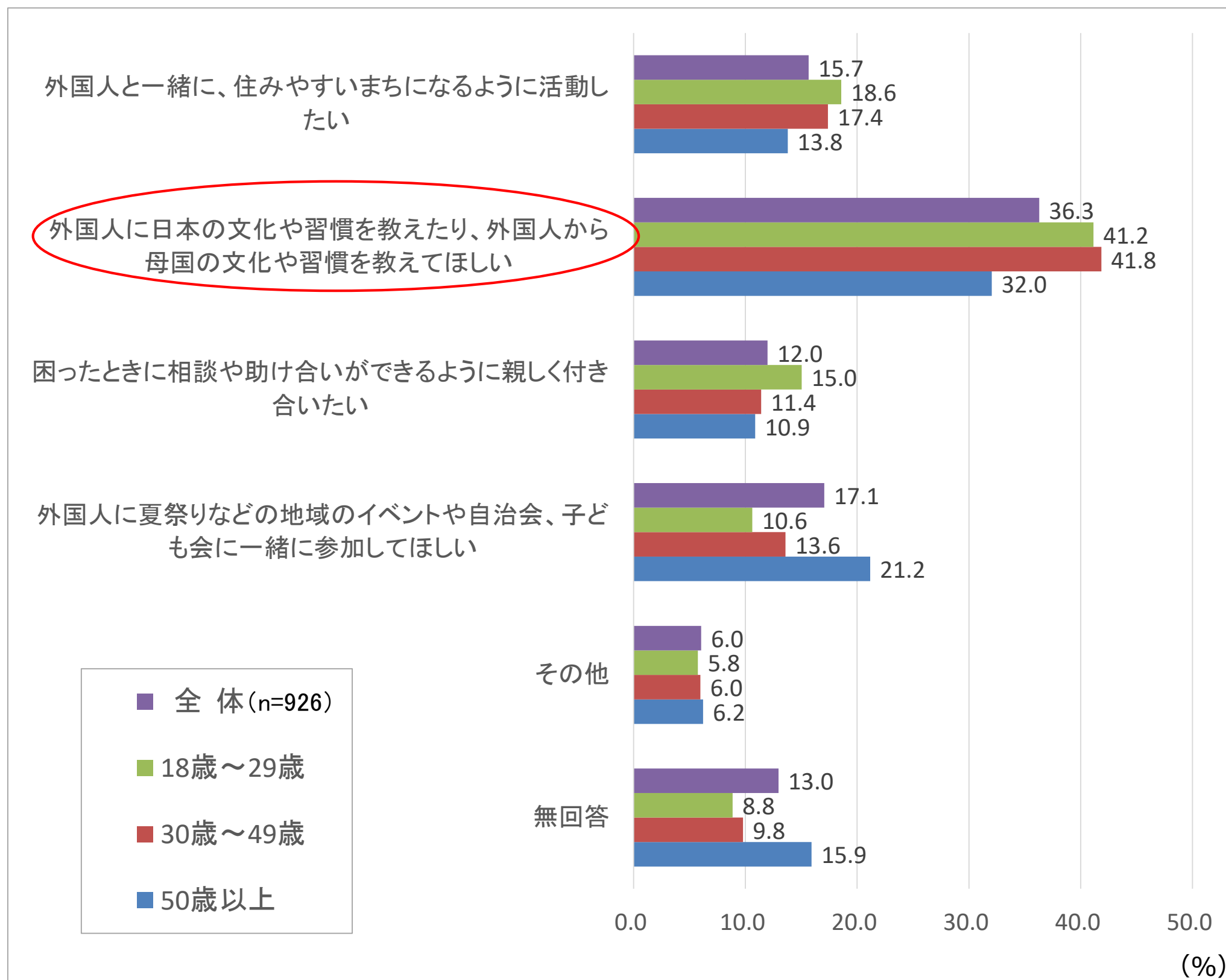
在住外国人に関する市民の考えはポジティブ面とネガティブ面が混在している。「外国の言葉・文化を知る機会が増える」(35.4%)や「交流できる」(25.4%)といった肯定的な意見が見られる一方、習慣や文化の違いによるトラブルに関する不安(65.7%)や治安悪化の懸念(45.0%)も相当数存在する。

年代別では若年層(18-29歳)ほどトラブルを懸念する割合が高く、若年層の不安感を和らげるための交流促進策や、トラブル予防のための施策(相談窓口、双方の理解を深める教育等)の充実が求められる。



日本人への調査結果

⑫ 在住外国人とどのような交流をしたいか



【前回調査との比較】

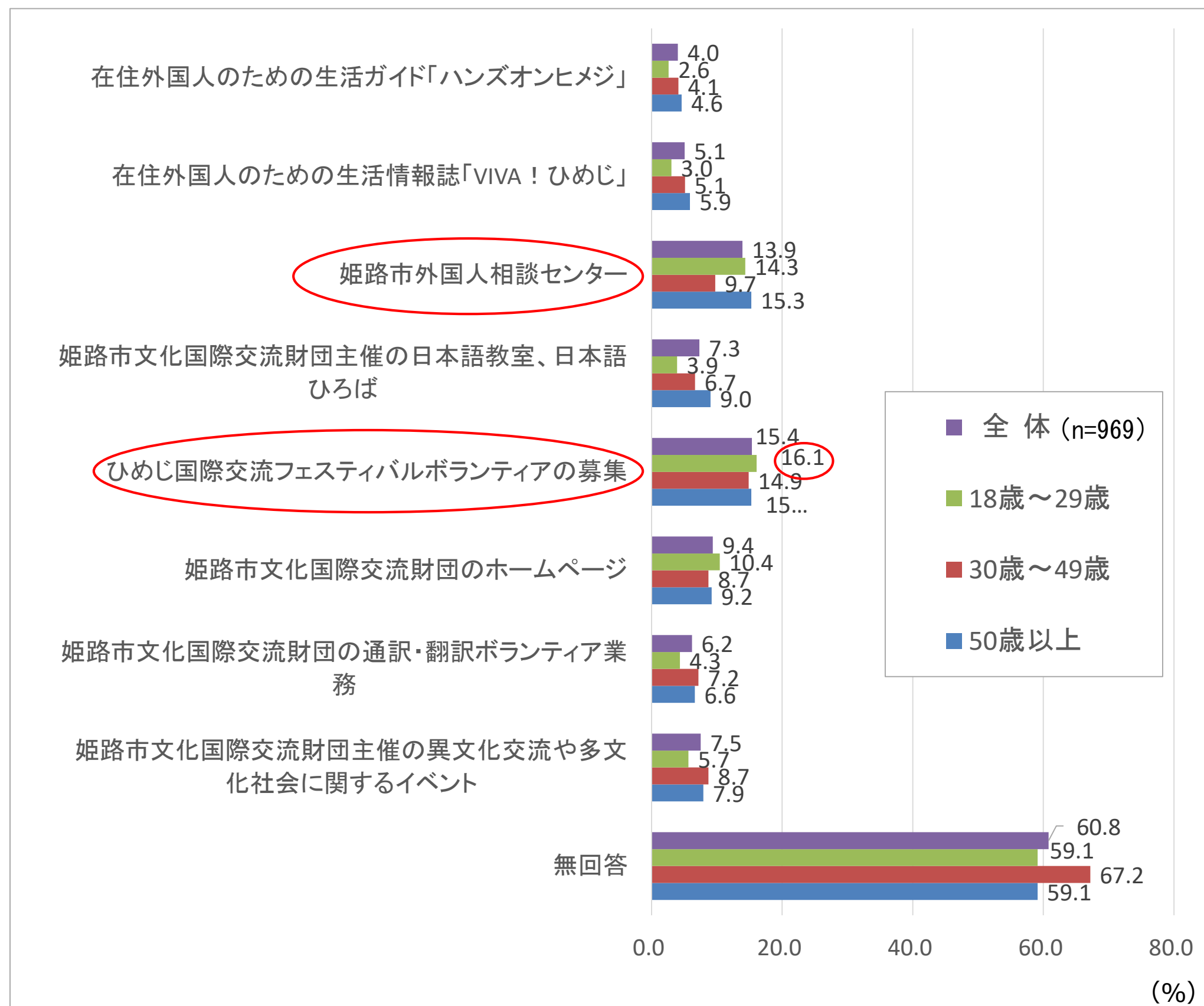
	令和2年	令和7年	増減
外国人と一緒に、住みやすいまちになるように活動したい	14.4	15.7	1.3
外国人に日本の文化や習慣を教えたり、外国人から母国の文化や習慣を教えてほしい	28.4	36.3	7.9
困ったときに相談や助け合いができるように親しく付き合い合いたい	12.0	12.0	0
外国人に夏祭りなどの地域のイベントや自治会、子ども会と一緒に参加してほしい	17.7	17.1	-0.6
その他	2.1	6.0	3.9
無回答	22.6	13.0	-9.6

外国人との交流は、「文化や習慣を教えたい・教えてほしい」(36.3%) が最も高く、次いで「地域イベントや自治会、子ども会に参加してほしい」が17.1% で、特に50歳以上 (21.2%) で高くなっている。一方で、困ったときの相談・助け合い (親しい付き合い) は12.0% と低い。主なニーズは「文化・習慣の相互理解」であり、イベントや学びの場の提供が有効と考えられる。



日本人への調査結果

⑬ 姫路市や文化国際交流財団の多文化共生に関する取り組みの認知度 ※複数回答



【前回調査との比較】

	令和2年	令和7年	増減 (%)
在住外国人のための生活ガイド「ハンズオンヒメジ」	2.8	4.0	1.2
在住外国人のための生活情報誌「VIVA！ひめじ」	6.7	5.1	-1.6
姫路市外国人相談センター	13.4	13.9	0.5
姫路市文化国際交流財団主催の日本語教室、日本語ひろば	9.5	7.3	-2.2
ひめじ国際交流フェスティバルボランティアの募集	19.0	15.4	-3.6
姫路市文化国際交流財団のホームページ	6.4	9.4	3.0
姫路市文化国際交流財団の通訳・翻訳ボランティア業務	7.0	6.2	-0.8
姫路市文化国際交流財団主催の異文化交流や多文化社会に関するイベント	8.0	7.5	-0.5
無回答	-	60.8	-

認知度が最も高いのは「ひめじ国際交流フェスティバル・ボランティア募集」（15.4%）で、次いで「外国人相談センター」（13.9%）となっている。一方で無回答が非常に高く（60.8%）、これらの取り組みが多くの市民に知られていないと考えられ、情報発信や周知に工夫が求められる。

年代別では若年層（18-29歳）で国際交流フェスティバル・ボランティア募集の認知度が比較的高い（16.1%）。



日本人への調査結果

⑭ 自由記述

分類	参考意見	回答数 (件)
日本の文化・習慣への理解促進 やルール順守	日本に在住する外国の方には、日本の習慣、礼儀、地域のルールについて十分学び理解してもらいたい。行政には、その機会をしっかりと作り管理してもらいたい。	29
交流したくない、受け入れないでほしい	もうこれ以上外国人を入れないでほしい。電車や町に外国人が多く、夜は集団で自転車をこいでいたり、怖い。日本人をもっと大切にしてほしい。外国人のための政策で日本人を金銭的に負担の面でも苦しませないでほしい。	23
治安悪化への懸念	姫路は観光客の受け入れだけで良いと思う。多くの外国人が入ると必ず治安が不安定になる。	18
外国人との交流促進	学校の教育現場で、オンライン交流の授業など、どんどん取り入れてほしい。万博での多国との方との交流が楽しかったので、そのようなイベントがたくさんあればと思います。	18
多文化共生の推進	外国人と共に支え合い、助け合う環境作りが大事だと思います。	15
日本人施策優先	国際化も大事だが、まずは日本人市民への支援を積極的に充実させて欲しい	11
国際理解の相互推進	海外の方とのトラブルは、慣習や文化の違いが大きいと思う。互いのことよく知る機会が増えればと思う。	10
ごみ出しのルール順守	ゴミ捨ての仕方がわからないのか、袋に入れられたゴミが道路際に放置されているのをよく見かける。 ルールがわからないのか、わかっていてやっているのかがわからない。 共生の前に外国の方がルールを守れる仕組み作りを徹底してほしいと母が言ってました。	3
交通ルール順守	昨今中国人に変わり中東？の若年層の人が多勢自転車で往来しているのを見かけますが危ない場面も見ます。自転車のマナーを教えてほしいと思います。	2
外国人の生活サポート	多文化共生は、人材、コストの面で難しいと思います。日本の社会に貢献して貰える外国人の方には、住んで頂ければいいと思いますが、日本語を学び、日本の文化や風習に慣れて頂くように、行政がサポートすればよいと思います。	2
その他	・近くに専門学校があります。外国の方が多勢通学していますがまったく交流はありません。 ・子ども教育として英語が「ヒアリングできる」「しゃべれる」様に強化して欲しい。	46